



## 〈雑録〉左右田君ノ新著「貨幣ト價值」

福田，徳三

---

(Citation)

經濟學商業學國民經濟雜誌, 7(3):434\*-445

(Issue Date)

1909-09

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051447>



## 左右田君ノ新著『貨幣

### ト價值』

法學博士 福田 徳三

近來經濟學ノ純理研究大ニ振興シ、殊ニ獨逸米國英國ニ於テ注目ニ値スル著述ノ續テ顯ハレ來ルハ、實ニ愉快千萬ナ事デアル。然シ純理中最モ中心問題タル可キ價值ニ關シテハ奧國派以外未ダ言フニ足ル可キ貢獻ノナイノハ、問題ノ性質ガ困難デ餘程秀レタ頭腦ヲ有スル人デナケレバ、下手ニ指ヲ此ニ染メルト却テ物笑ノ種ヲ蒔クニ過ギスカラ人皆躊躇スルノデモアロウガ眞ノ原因ハ從來ノ形式的技術の方面ノ觀察デハ最早論歩ヲ進ム可キ餘地ガナク、深ク哲學殊ニ認識論ノ源頭ニ溯テ盡キザル泉ヲ汲ミ來ルノ外ナキ點マダ進ンデ來タガ、近來ノ經濟學者ハ哲學ノ素養甚乏シキ爲メ之ヲ爲ス能ハザルコトニ

存スルノデアル。而シテ價值ト市價トノ交渉其中間ニ立ツ貨幣ノ問題、此等凡テヲ綜合シタ研究ニ至テハ與國派ニナク、正統派ニナク、歴史派ニナシ。貨幣ニ就テハ近來ジムメル及クナツプノ新説出デ、現ニ學界ヲ聳動シツ、アル次第アルガ、價值トノ交渉、從テ市價ヘノ行程ヲ一括シテ觀察シタ研究ハ未ダ出來テ居ラス。然ルニ茲ニクニース、ジムメル、クナツプ三氏ノ貨幣論ニ更ラニ一步ヲ進メ價值トノ交渉ニ於テ市價論ノ前提トシテノ新貨幣論ガ顯ハレテ學界ヲ驚カサントシテ居ル從來ノ技術的立場ヲ打破シ、新タニカントノ哲學ニ根底ヲ求メタ認識論ヨリシタル貨幣ニ關スル純理研究ヲ以テ從來ノアラユル經濟學者ヲ縱橫無盡ニ論破シ別ニ前人未發ノ學理ヲ建テント試ミタ書ガ顯レタ。而シテ此大膽ナル企ヲ敢テシタモノガ、獨逸人デナク與國人デナクシテ、我々ト祖國ヲ同スル日本人デアルト云フコトハ、日本ノ經濟學ノ爲メニ

僕ハ太白ヲ舉ゲテ祝セザルヲ得ナイノデアル。商學士ニシテチュービンゲン大學ノ「ドクトルデルスターツヴキセンシャフト」デアル左右田喜一郎君ノ近業

Geld und Wert. Eine logische Studie. Tübingen 1909.

ハ即チ其書デアル。

著者ハ曩キニ東京高等商業學校專攻部在學中カラ、此問題ノ研究ヲ始メ、二ケ年間研究ノ一段落トシテ市價論ノ一部タル『信用券貨幣論』ナル書ヲ公ケニシタ。其後研讀ヲ積ムコト更ラニ數年去明治四十年ニハコンラツド氏ノ「ヤールブエヘエル」ニ

Die neue Knappsche Geldtheorie und das Wesen des Geldes.

『クナツプ氏ノ貨幣新論ト貨幣ノ本質』

ナル長論文ヲ公ケニシタガ、此度ハ其等凡テヲ綜合シ、多クノ點ニ於テ論究ヲ進メタ研究ヲ

一 括シテ『貨幣ト價值』ナル認識論上ノ一研究ト

シテ公ケニシタノデアル。此書元ハチュービン  
 デン大學國家學科大學ノ『ドクトル』論文トシテ  
 教授會ニ於テ非常ニ優秀ナル學力ヲ示メスモノ  
 ト認メラレタモノデアル、其後著者ハ學位試験  
 ニ於テ亦タ拔群ノ成績ヲ顯シ、爾來校訂ノ業ヲ  
 重テ今漸ク其著ノ出版ヲ見タ次第デアルガ、「ド  
 クトル」論文ニハ甚ダ勿體ナイモノタルハ言フ  
 迄モナイ、「ドクトル」論文ナラ日本ノ事デモ書  
 イテ置ケバソレデ事ハ足リル。サレバ此書ガ  
 「ドクトル」論文トシテデナク、新ナル形ニ於テ  
 顯ハレタノハ學界ノ爲メニ仕合ト思フ。即チ左  
 右田君ガ去三十四年以來殆ンド足掛十ヶ年カ、  
 ツタ研究ガ此書ニ具體サレテ居ルモノト見テ宜  
 イノデアル。大膽ト云ヘバ大膽ダガ十年間モ同  
 一問題ニ全心力ヲ傾注シタ以上、著者ハ優ニ  
 此一書ヲ以テ世界ノ學界ニ問ハントノ自信ヲ有  
 ス可キデアル。著者ハ其書ノ結論ニ斷言シテ曰

ク

Unabhängig von dem Geldbegriff hat nach uns  
 kein ökonomischer Begriff einen ersten Sinn...  
 ..... Uns genügt schon, wenn wir damit die  
 traditionellen Geldtheorien, die mit wenigen Aus-  
 nahmen so lange eine blosse Numismatik geb-  
 liehen sind, von ihrer Herrschaft verdrängen und  
 einen wirksamen Schritt für die systematische  
 Reform der Volkswirtschaftslehre getan haben.  
 S. 176.

『貨幣』ノ概念ヲ離レテハ經濟上ノ概念ハ一ト  
 シテ眞實ナル意味ヲ有スルモノナシトハ予ガ  
 主張スル所ナリ。.....予ガ研究ニシテ(僅  
 カノ除外例ノ外ハ)弄錢學ノ範圍ヲ多ク脱セ  
 ザル從來ノ貨幣論ノ通説ヲシテ其支配ヲ免レ  
 シメ依テ以テ經濟學ノ根本的改革ニ向テ一步  
 ヲ進ムルヲ得ンカ、予ガ望ハ即チ足レリ  
 ト。以テ著者ノ抱負ノ大ナルヲ想見ス可キデア  
 ル。思フニ此書一度出デ、贊否ノ論大ニ起ル

コトデアロウ。殊ニ近來經濟學ノ哲理的研究勃興シツ、アル形勢デアルカラ、カントノ哲學ニ土臺ヲ置イタ認識論カラノ經濟學研究ノ急先鋒タル本書ガ而モ獨逸ノ學者ニ依テバナク却テ遠イ日本ノ一少壯學者ニ依テ先鞭ヲ着ケラレタト云フコトハ、驚カサレタ人モ少クアルマイ。何シロ我日本ノ學問ノ爲メニハ萬丈ノ氣焰ヲ吐イタモノデ、愉快千萬ニ感ゼザルヲ得ヌ次第デアル。クナツプ氏ノ貨幣論ニ對スル學界ノ評論未ダ喧シキ今日、更ラニ一新研究ヲ加ヘテ、學界ニ花ヲ咲セル。思ヘバ經濟學ノ前途實ニ洋洋タルモノアリト言フ可キデアル。而シテ我日本ノ學者ガ、此新趨勢ノ中心ニ立テ之ニ貢獻スルヲ得ルハ更ラニ喜ブ可キ事デハナイカ。

サテ僕自身ハ著者ノ處女作『信用券貨幣論』ト密接ナル關係ヲ持テ居リ又此書中僕ノ説ヲ駁撃セラレタ箇所モ見受ケルカラ寄贈ヲ受ケタ御禮トシテ丈ケデモ予ノ立場ヲ明カニスル必要ヲ感

ズルガ、本書ハ頁數ニシテ百七十六頁一行一句皆精鍊ノ結果ニ成ルモノダカラ、一時ニ其全部ニ就テ評論スルコトハ敢テシ得ナイ先ヅ本書ニ就テ二三心付イタ點ヲ述ブルニ止メ總評ハ他日精讀熟考ノ後ニ讓ル。

先ヅ此書ノ結構ヲ一寸紹介セテバナラス。此書全部ヲ二篇ニ分ツ

一批評篇 Kritischer Teil

二主張篇 Positiver Teil

其前ニ短キ緒言ガアル。

批評篇ハ三章ヨリ成ル

第一章 價值尺度説及比例説 (クニース及ジムメル)

第二章 國定説 (クナツプ)

第三章 貨幣本質ニ關スル學説ノ現状

主張篇ハ四章ヨリ成ル

第四章 個人ト社會

第五章 評價個人ノ社會『評價社會』

## 第六章 評價ノ階段及貨幣職分ノ發展

### 一、對象價值、媒介價值及交換要具トシテノ職分

### 二、價值ノ客觀的表彰トシテノ職分

## 第七章 貨幣及價值ト經濟學ノ根本概念

今其大要ノ順序ヲ云ヘバ先ヅ貨幣ニ關スル最重要ナル(一)價值尺度ナリトノクニースノ經濟學的定義(二)比例ヲ言表ハスニ過ギズトノジム

メルノ哲理的定義(三)國家ノ法制ニ定ラル、モノナリトノクナツプノ法律的定義ノ三大說ヲ紹介シ、其缺點ヲ指摘シ、續テ其他ノ種々ノ說ヲ評論シテ批評篇ヲ了リ、著者ノ自說ヲ主張スル主張篇ニ於テ先ヅ論ヲ個人ト社會トノ定義ニ起シ、種々ノ通說ヲ評論シテ後著者自ラノ定義ヲ下シ、之ニ基テ著者獨創ノ新說タル『評價社會』ヲ說キ、其發達ニ幾多ノ階段アルヲ說キ茲ニ。『對象價值』ト『媒介價值』ナル新術語ヲ輸入シ來リテ交換要具トシテノ貨幣ノ職分ヲ說キ、此職

分ハ又他ノ方面ヨリ見ルトキハ『價值ノ客觀的表彰』ナル職分トナリテ顯ハル、モノニシテ、二者ハ決シテ相異レルモノニアラズ、同一物ノ異レル形ニ過ギズトシテ、所謂『職分ノ分立』ナルモノ貨幣ニ無シト主張シ、終ニコレヨリ、凡テ經濟學上ノ根本概念ハ皆以上ノ意ニ解シタル貨幣及價值ヲ中心トシテ定ム可キモノナルヲ主張シテ論ヲ結ブノデアル。

本書ノ外形ニ就テ一言ヲ許サル、ナラハ讀ンデ先氣ノ付クコトハ、本書ハ非常ニ讀ミ易ク分リ易ク書イテアルト云フコトデアル。著者ノ『信用券貨幣論』ハ難解ノ書トシテ無類ノモノト看做サレテアツタ、實際校訂ノ業ニ從事シタ坂西教授モ僕モ時々ハ丸デ分ラステ困ツタ處ガアツタ位デ、一般ノ讀者ハ到底分ル可キ筈ノモノデナイト見極メテ居タ様デアル、恐ラク全篇通讀ヲ終ヘタ人ハ幾人モアルマイ。(或ハ著者ト坂西君ト僕トノ三人限リデアツタカモ知レヌ)「ヤ

「ルブエヘル」ノ論文ハ大分分リ易カツタ、併シ獨逸ノ學者ハ別トシテ、日本ノ學者デ彼文ヲ一讀シタ人ハ澤山ハアルマイ、左右田君ノ文ト云ヘバ直チニ難解ヲ連想スルト云フ位デアツタ然ルニ此度ノ著述ハ全ク之レト事異リ、大ニ讀ミ易イ、純理研究ノ本デ此位流暢明快ニ書キ流シタ本ハ獨逸人ノ筆ニ成ルモノデモブレタノ及ヅムバルト教授ヲ除ケバ他ニ餘リ澤山ハナイジムメルデモクナツブデモクニースデモ遙カニ是ヨリ六ケ敷ク書イテアル。著者ノ獨逸文ノ造詣ハ今更云フマデモナイコトデアルガ、此書ニ顯ハレタ處ヲ見ルト、少シモ外國人ノ書イタ形迹ガ見エナイノミナラズ、獨逸流ノ廻リクドイゴテゴテの書方ガ少モナク、サラサラト思フ事ヲ直裁簡明ニ言ツテ除ケル、其筆力ノ雄勁ナルニハ敬服セザルヲ得ナイ、最モ僕ノ經驗ニヨレバ指導教授ガ大分手ヲ入レテ呉レラレルカラ、左右田君ノモフツクス教授若クハリツカト敎

授ガ一通リ目ヲ通サレタノカモ知レヌガ、イクラ手ヲ入レテモ太根ガ人參ニナル事ハナイカラコレハ畢竟著者ノ原文ガ甚ダ明快ニ書キ下シテアツタモノト見ズバナルマイ。此點ニ於テ『信用券貨幣論』時代ノ左右田君ノ偉ハ見タクモ見ラレナイノデアアル。著者ノ勉強ハ言フマデモナイトシテ、大ナル思想ヲ言ヒ表ハスニハ又大ナル筆力ヲ要スルコトヲ思ヘバ、著者ハ鬼ニ金棒ヲ添ヘタモノト云フ可キデアル

コレハ實ハ意想外デアツタ。内容ハ必ズシタモノガ出ルデアロウトハ豫期シテ居タガ、サテ行文ガ難澁デハ讀ムニシテモ一骨折ダト内々心配シテ居タガ、此書ニ接シテ全ク其心配ガ無クナツタ

紹介ノ口上ハ是位トシテ、内容ニ付テ一二心付イタ處ヲ言ハウ。最モ全體ヲ一括シテ評論スルノデナケレバ部分ニ付テ彼是言ツテモ、此書ヲ見タコトノナイ人ニハ餘リ益ハアルマイト思

フガ、今ハ其閑ガナイ（此書ヲ接手シタハ四五日前ノ事デアル）カラ、唯讀過ノ際少シク疑ヲ生ジタ箇所丈ケヲ申シテ見ル。ソレモ批評篇丈ケニ止メル

批評篇ニ於テ著者ハ批評以外自說ノ主張ヲ諸所ニ試ミテ居ル。否前人ノ所論ヲ批評スルニ先ヅ自說ニ適應スルト否トヲ標準トシ

### 價值ノ客觀的表彰

ニ該當スルモノトシテクニースノ尺度論及ジムメルノ比例說ヲ評論シ、直リC unsere Auffassungトシテ自說ヲ述ベ

### 交換要具

職分ト云フ處デハ、直チニ職分分立論ノ非ヲ唱シラフリン、ジェヴオンズ、ニコルソンミル、ハドレー、タレット及僕ヲ分立論者トシテ排斥シ、メンガー、ウオーカー、クニース、フキリボウキツチハ純然タル分立論者ナラザレドモ猶此二ノ職分ヲ異ナルモノトスル故不可ナリト

論ジ、直チニ『客觀性』コソ貨幣存在ノ理由ナリトノ著者ノ說ノ極意ヲ布演シ又直チニマルクスノG-W-W-Gヲ輸入シ來リ、附論中ニ信用券ハ貨幣ナリトノ著者ノ宿論ヲ添ヘテアル。コレハDispositionノ上ニ於テ僕ハ抗議セザルヲ得ヌ。コレデハ批評ト主張トガ混同シテ公平ナル批評ノ態度ニ損害ヲ加ヘル。著者ハ既ニEine logische Studieト其書ノ性質ヲ公言スルカラ、コレハ甚ダ妥當ヲ缺グ、寧口初メニ簡單ニ自說殊ニ貨幣ハ價值ノ客觀的表彰ナリトノ主張ヲ叙述シテ置テ、ソレカラ批評ニ入ル可キデアル。然シ本當カラ云ヘバ批評篇デハ各論者ノ論旨ヲ其言ヲ以テ紹介シ其論法ニ基テ其缺點ヲ指摘シ終ニ著者ガ新說ヲ立テザルヲ得ザルニ立到ツタ道行ヲ明カニス可キデアルト思フ。殊ニObjectivitätノ論ハ開卷劈頭カラ提出ス可キ性質ノモノデハナイ。主張篇ニ於テユツクリ充分ニ論述スル迄取ツテ置キニス可キモノデアル、著者ハ

他說ヲ批評スルニ忍耐ヲ有スルコト少ク、早ク自說ヲ出シテ異說ヲ粉碎シヨウトノ念ニ驅ラレテ、如此混同的 Disposition ヲ取ルニ至ツタモノト思ハレル、無理トハ更々思ハスガ、ソレデハlogisch ト云フ題詞ニ迷惑ヲ及ボシハセヌカ敢テ一考ヲ煩シ度イモノデアル又二十四頁bノ末尾ニクナツヅノ支拂要具說ノ事ヲ提出スルハ全ク badly located ト言ハチバナラス、讀者ハ少カラズ面喰フコト、思フ。コレヲ偶發的作用ナリト斷言シテモ、何故然ルカラ云ツテカラデナケレバ、著者ノ『ドグマ』ト看做サレル恐ガアル二十二頁末段『價值ハ數量的ニ不可分ノモノナリ』ト說テアルガ少シ注意スル讀者ニ『價值ハ數量的ニ可測ナリヤ不可測ナリヤ』トノ疑問ヲ起スガ、其解答ハズツト後段ニナラナケレバ與ヘラレテナイノハ親切ナ論ジ方デハナイ。

クニース評論ノ處デ(十一頁) Objekt-Mittel トノ論ガアルガ、コレハ又讀者虐待モ甚シイ。後

ニ主張篇ニ對象價值媒介價值ノ詳論ガアルノニコンナニ早クカラ Objekt Mittel ニ關スル著者ノ自說ガ而モクニース評論トシテ出テ來テハ餘程頭ノ良イ讀者デナイト、譯ガ分ラナクナル。少クトモ C) unsere Auffassung ノ處マデ猶豫シテ吳レチバ讀者ハ實ニ難儀デアル。而シテ二十九頁自說ノ末尾ニ Objekt Mittel ノコトガ繰返シテアルニ至テハ僕ハ讀者ノ一人トシテ大ニ抗議セザルヲ得ヌ。

而シテ Objekt Mittel トノ論ハ疑モナクアリストテレーズノ物ノ二様ノ使用論ニ基テ居ルモノデアル(コレハ僕モトマス論其他ニ於テ論ジタコトガアル)然ルニ其事ヲ默殺シテ居ルノハ少シ感服シ兼スル。名ハ異ツテモ實ハ同ジ。此場合ノ新說ハアリストテレーズニアツテ左右田君ニナイコトハ斷ツテ吳レチバ困ル。

サテ二十六頁ノ

一個 五十麻克

## 二個 六十麻克

ノ場合ニ就テノ價值尺度論攻撃ハ少シ無理ト思フ。(此例說ノ方ハ說アリ他日ニ讓ル) 價值ノ尺度ハ價值ノ尺度デアル數量ノ尺度デナイ

一錢ノ絲ノ長サ 三尺

十錢ノ絲ノ長サ 五十尺

デアツタカラトテ物差ガ物差デナイト云フコトハナイ。五十麻克ト六十麻克トヲ測ルノガ價值ノ尺度デ其測ラル、モノ數ガ異フカラトテ別ニ變リハナイノデアル。著者ノ議論ハ *Petition principle*ノ嫌ハナイカ。五十麻克ノ一個モ六十麻克ノ二個モ價值評量ノ上ニ於テハ *Einheit* デアル *Vielfalt* デハナイ。二個ノ卓、二個ノ帽子ト云フ『一ツノ物』ノ價ガ六十麻克デアルコト、一個ノ卓、一個ノ帽子ト云フ『一ツノ物』ノ價ガ五十麻克デアルノト異ル所ハナイ。此ノ『一ツノ物』ト彼ノ『一ツノ物』トノ價值關係ガ 50:60 ト云フ比例ヲ以テ言表ハサレルノデアル。佛典ニ『十

世當念』ト云フコトガアルガ、恰モコレヲ云ツタモノデアロウ。

三十三頁

Ohne Tausch oder Verkehr Kann der Begriff des Geldes nicht zum Bewusstsein kommen.

ノ處著者ノ說トシテハ甚ダ尤ナル次第デアルガ僕一己ノ宿論ハ其反對ニ

Ohne Geld Kann der Begriff (?) Tauschverkehrs nicht des zum Bewusstsein kommen.

トシテ居ル、但シコレハ他日再論シテ著者ノ教ヲ乞フニ讓ル。

三十四、五、六頁ノ信用券ハ貨幣ナリトノ著者ノ說ニ對シテハ僕ハ今猶昨ノ如ク極力反對セザルヲ得ザルコトヲ明言スルニ止メテ置ク

クナツツ說ニ就テハ大ニ議論ガアルカラ今ハ省テ置ク。但シ四十五頁

Das einzige Merkmal des Geldes ist seine Objektivität.

ト再ビ言テアルガ、コレハ前言フ通り (Object-  
トハ何デアルカ、一向説明シテナクテ度  
度繰返サレルノハ實ニ難儀デアルコトヲ申シテ  
置ク

サテ一足飛ニ四十七頁ノ脚注ニ就テ聊カ苦情  
ヲ述ベテバナラス

著者ハフツクス及ブユヘルノ貨幣ハ一方的  
(強制)仕拂要具即チ罰金、上納金トシテ用ラレ  
タモノヨリ發生シタト云フ說ヲ攻撃シテ此說ハ  
左ノ二ノ問ニ對シテ明答ヲ與ヘヌ以上ハ許スコ  
トガ出來スト云フ

(一)何故ニ多クノ仕拂要具ガ後ニ尺度交換要  
具トシテ用ラレザルコトアルカ

(二)何故ニ嘗テ仕拂要具タラザリシモノガ尺  
度又ハ交換要具トシテ用ラル、カ

ト云フガ、コレハ gar nicht logisch デアルト思  
フフ、ブ兩氏ノ說ハ扨置キ、僕モ此說ヲ近來主  
張シテ居ルガ、ソレハ抑モ貨幣ナルモノ、發生

ニ就テ云フノデ個々ノ貨幣物件ガ貨幣トナツタ  
順序ヲ云フノデハナイ。家ト云フモノハ猛獸ヲ  
防グ爲メニ作ツタノガ始メダト云フタトテ、今  
日猛獸ヲ防グ役ヲ少シモセズ初メカラ住家トシ  
テ作ラレル家計リデハナイカト云フノハ、議論  
トシテ成立タナイ。抑モ人間社會ニ貨幣ナルモ  
ノガ發生シタ始メハ一方的強制仕拂ニアルト云  
ツタトテ其物ガ後ニ尺度トシテ用ラレヌトテ一  
向構ハヌ。左右田君ハ其例トシテ我邦ノ調

Manche Naturalien in den ursprünglichsten Abg-  
aben system in Japan (恐ラク弓末調手末調ヤ令  
ノ調ノ事ヲ指シテ言フノデアロウ)ヲ引テ居ル  
ガコレハ聊カ引用不妥當ト云ハチバナラス。我  
邦歴史ニ於テコソ僕ハ一方的強制仕拂要具カラ  
貨幣ガ發生シタ理ヲ證明シ得ルト信ジテ居ルガ  
ソレハ兎ニ角個々ノ調貢物件ニ就テ云フノデナ  
ク調貢其事カラ貨幣ガ發生シタト云フノダカラ  
調貢用ノ物貨ガ尺度ヤ交換具トナラナカツタト

テ一向差支ハナイノデアル。從テ第二問モ無意味トナル、左右田君ハ其例トシテ永樂錢ノ事ヲ引テ居ルガ、永樂錢ガ仕拂要具デナカツタトハコレハ同君ノ考違デアル、歴史ノ事實ヲ無視シタ論デアル、或ハ *das älteste Münzgold* ト云フノハ所謂無文銀錢ノ事デアルナレバ、コレハ猶更史實ニ遠イ論デアル、抑モ無文銀錢ガ尺度デアツタカ、仕拂要具デアツタカ、其何レカ一方ノミデアツタカ、今日到底分ラナイデハナイカ而シテ此無文銀錢ニ付テハ先覺ノ内全ク無文デナクXナル刻印アリテソレハ稻ヲ代表スルモノデアルトノ説ヲ出シテ居ル人モアル。何ノ道我日本カラノ引例ハ事實トシテ當テハマラス。ヨシ當テハマツタ處デソレハ、僕等ノ説ヲ打破スル力ヲ有シテ居ラス。支那ヨリ輸入シタモノハ *Goldstoft* デアツテ *Gold* デハナイコトハ、左右田君ノ論點ヨリ云ツテモ、否定スルコトハ出來ヌ筈デアル、僕等ハ貨幣素材ノ發生ヲ言フノデ

ナイ、貨幣ノ起源ヲ言フノデアル。猶我邦貨幣起源ノ事ハ他ノ機會ニ少ク論ズル積デアル  
四十八頁ニ左右田君ハ猶進ンデ今日デモ一方的強制仕拂(罰金、租税)等ニ物納ガ行ハル、コトガアルト云フヲ以テ右説ヲ確メントシテ居ルガ、コレモ威服シ能ハザル議論デアル。一方の仕拂デナクトモ物品拂ハ勞銀ニ行ハレテ居ル、其故物品拂ハ勞銀支拂ノ發展上現金拂ヨリ後ニ發生シタモノト云フ論ハ立タヌデハナイカ、左右田君ノ茲ニモ我邦徳川時代ノ事ヲ引例シテ居ルガ、コレモ承服シ難イノデアル。徳川時代ノ米ハ仕拂要具デアツタガ、價值ノ客觀的表彰デハ決シテナカツタ、而シテ同頁脚注中ニ之レヲ以テフブ兩氏等ノ説ハ法律上ノ貨幣先づ起リテ經濟上ノ貨幣之ニ續クモノト爲ス也ト云フガ、兩氏ハイザ知ラズ僕ハ左様思ハヌ。一方の仕拂ト云フコトハ法律上ノ事實タルト共ニ經濟上ノ事實デアル。仕拂ノ要具ト云フコトヲ貨幣職分

トシテハ從屬的ノモノデアルト云フ前提ヲ置テ  
カ、ルカラ、左様云フ論ガ出ル、仕拂ノ要具ト  
云フノガ何故法律上ノ貨幣タルニ止テ經濟上ノ  
貨幣タラザルカ、著者ニ於テ説明シテ吳レチハ  
直チニ僕等ノ議論ハ破レタリト云フコトハ出來  
ス。

以上ハホンノ讀過ノ際心付イタ疑義ヲ列ベタ  
ニ過ギスモノデ、正當ナル意味ニ於ケル批評デ  
ハナイ。何レ精讀ノ上更ラニ著者ノ主張篇ニ就  
テ充分議論ヲ闘ハシテ見タイト思フ。兎ニ角此  
書ノ出版ハ千九百年ノ經濟學界ニ於ケル一ノ  
出來事デアアルコトヲ日本ノ讀者ニ紹介シ、原書  
ノ一讀ヲ大方ニ向テ希望スル意ヲ顯ハス爲メニ  
一寸附タリノ數言ヲ試ミテ置イタノデアアル

(七月三十一日鎌倉ノ客舎ニ於テ記ス)